

◆生産者会議

シャコガイ生産者会議

水産海洋技術センター 大城信弘

1. 背景・目的

シャコガイは昭和50年代から放流が試みられ、最近では、養殖が取り組まれているが、小規模に止まっている。

其処で、今後のシャコガイ生産発展の為、互いの技術交流を図るべく生産者会議を開催した。

2. 日時及び場所

平成27年3月5日

恩納村コミュニティーセンター会議室

3. 結果

会議は座談会形式で9機関18名に、栽培漁業センター1名、普及指導員5名の参加で、主に漁業者同士が尋ね合う座談会方式で行った。

各自の自己紹介と取り組みの状況報告の後、普及指導員から、此までのシャコガイ生産の経緯概要説明が行われ、その後各地の状況や問題点等の報告を行い、対策を話し合った。

会議では、大きな問題点として、密漁、台風対策、値段の下落等が上げられた。密漁に対しては、有効な手が無く、各地ともに対応に苦慮している状況で、数例でも逮捕に至るのが必要との事であった。

ケージ式の台風対策では、糸満では、鉄筋を強く打ち込み、強固に固定するのに対し、恩納村漁協ではケージは支柱の上に乗せるだけで固定せず、緩やかに動くよう設置し、又他所ではケージを海底に直接置いている等、漁場毎に異なる対策が行われている。

今後のシャコガイ利用に関しては、値段対策を含めて、観光利用を進めたいとの意向が多かった。

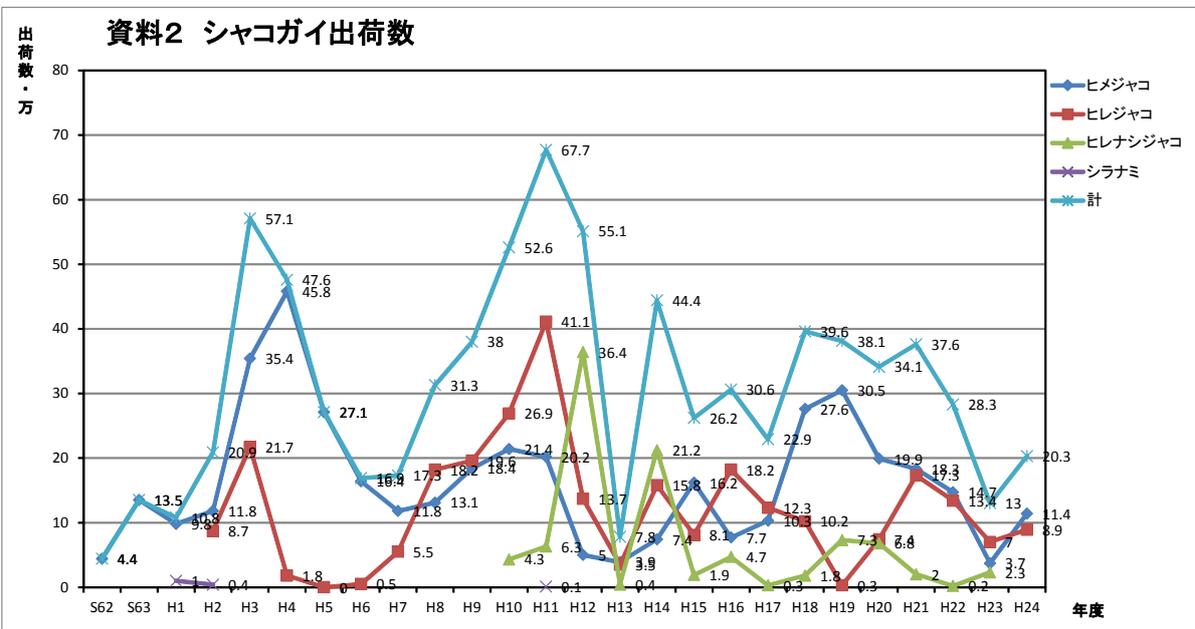
ヒメジャコの人工基盤・マグホワイトに対しては、値段が高いとの意見が多く、コンクリートなど、独自に対応している例も示された。

ヒメジャコの陸上飼育では、羽地漁協・塩屋区で、今年に入って水温低下に依ると観られる大量死が生じているが、読谷漁協では地下海水利用で水温が24℃程度と安定しており、目立った死亡は無いとの事であった。

現在、県で行っている、人工基盤でのヒメジャコ養殖試験の収支が、来年度中では示される予定であり、今後とも情報共有を進めていく必要がある。



会議の様子



資料3 シャコガイ研究経過概要

年度	主な事項
昭和49年度	餌料藻培養 (kabiraA)、川平湾分布・着生時期調査。
昭和50年度	ヒメジャコ生長量調査。採卵法6法検討し、切り出しのみ採卵。その後温度刺激でも僅かに採卵。2.5mm稚貝1個生産。
昭和51年度	ヒメジャコ生長量、新規着生、生殖巣部重量調査。人工照明飼育。稚貝は3.2~4.5mmでも穿孔は観られず。ヒレジャコ分布調査。
昭和52年度	ヒメジャコ生長量、新規着生、生殖巣部重量調査。切り出し生産。共生藻併用投与。0.7mm453個。3mm20個サンゴ片に埋め込み。21日後生残無し。
昭和53年度	モノクリルス導入。切り出し採卵。間出・温度・生殖巣部懸濁でも産卵あり。種苗生産に至らず。4種人工的な自家受精確認。
昭和54年度	温度刺激のみでも産卵有り。トドンナリエラ使用。1mm1.5万個体。1mm1万個体撒き放流。
昭和55年度	温度刺激、切り出し採卵。45日目で13.6万個、中間育成で急減。地撒き、埋め込み放流比較。埋め込み法が優れる。
昭和56年度	切り出し。60日目で8.5万個、中間育成で急減。2.5~5mm、折表法1.1万個放流。3ヶ月後の生残率0.5~18.7%。セメントブロック植え付け50個。
昭和57年度	ヒメジャコ1mmを12.9万個、シャゴウ7千個。セメントブロック植え付け約1年後30%生残。
昭和58年度	ヒメジャコ1mm20.6万個。ヒレジャコ、シャゴウは生産されず。セメントブロックを含め3法で12364個放流。
昭和59年度	ヒメジャコ切り出し、セロトン法で1mm5.9万個。ヒレジャコ1mm2.6千個、シャゴウ63日目で9.8千個。
昭和60年度	ヒメジャコ切り出しで1mmを10.7万個。ヒレジャコ生産されず。シャゴウ1~1.5mmを3.2万個生産。ヒメ3法放流は2.4~11.5mmで15500個。
昭和61年度	ヒメジャコ1mm9.4万個。他の3種は採卵されず。
昭和62年度	ヒメジャコ1mmを38.6万個。ヒレジャコは生産されず。放流5年で8cm。セメントブロック法の継続観察では、生残無しに。ピース法考案。稚貝掃除菌ブラシセット。
昭和63年度	誘発多量採卵。屋外槽1mm40万種苗生産。次亜塩素酸雑藻処理。共生藻餌料。掃除貝使用開始。各地への放流本格化。ドリル使用。
平成元年度	シラナミ生産1.4万個放流。掃除巻き貝使用本格化。
平成2年度	ヒメジャコ11.8万個、ヒレジャコ8.7万、シラナミ0.4万個出荷。ヒレナシ3cm2千個余生産。寄生貝。シャコガイヤドリカケギリガイ・大発生。
平成3年度	ヒメジャコ35.4万個、ヒレジャコ21.7万個出荷。海中ケージ養成開始。
平成4年度	ヒメ45.8万個、ヒレ1.8万個出荷。
平成5年度	ヒメジャコ27.1万個出荷。各地の埋め込み放流ヒメジャコの成長調査。7年で8cm前後。
平成6年度	養殖用有償化・2円/個。ヒレジャコ飼育4年で産卵有り。
平成7年度	
平成8年度	
平成9年度	ヒレジャコ放流は18cm以上で高生残。共生藻の長期培養。
平成10年度	ヒレジャコ稚貝加温飼育。28℃加温で65%生残。ヒレナシジャコが8年で産卵。有償化・5円/個。
平成11年度	養殖5円/個
平成12年度	
平成13年度	
平成14年度	
平成15年度	
平成16年度	
平成17年度	
平成18年度	シラナミを2種に。マグホホワイト等・ヒメ人工基盤。養殖、放流共に0.7円/mm。
平成19年度	
平成20年度	栽培漁業センターでヒメジャコ生産開始。
平成21年度	
平成22年度	
平成23年度	
平成24年度	ヒレナシ生産中止。現在、放流、養殖0.7円/mm

25年度実績報告書原稿予定

1：シャコガイ種苗生産指導。

2：シラヒゲウニ種苗生産指導。

3：ヒトエグサ養殖指導。

4：モズク養殖指導。

5：ヒトエグサ生産者会議。